

社会資本総合整備計画 事後評価書											令和08年09月18日					
計画の名称	大富士中学校区周辺地区都市再生整備計画															
計画の期間	平成26年度 ～ 平成30年度（5年間）										重点配分対象の該当					
交付対象	富士宮市															
計画の目標	大目標：『活気にあふれ、災害に強い安心・安全に暮らせるまちづくり』															
	小目標：「豊かな心をはぐくむ学びの場と安心して過ごせる憩いの場を整備し、市民活動の活性化と地域コミュニティの強化を目指す」															
	小目標：「安全で快適な道路環境を整備し、歩行者の安全性向上と地域内移動の円滑化を目指す」															
	小目標：「身近な防災拠点の整備・充実を図り、災害に強いまちづくりを推進する」															
全体事業費（百万円）		合計（A+B+C+D）		869	A	869	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H25当初)		(H30末)
1	公民館の利用者数3,547人(H24)から15,500人(H30)に増加 地区内の自主講座、サークル活動、公民館まつり等を通じた交流人口	3547人/年	人/年	15500人/年
2	道路環境の安全性満足度を28%(H25)から39%(H30)に増加 地区内住民アンケート調査による道路環境の安全性に対する満足度 「自動車が安全に通行できる」「歩行者や自転車が安全に通行できる」の問いに対し「満足」、「ほぼ満足」と回答した割合	28%	%	39%
3	防災対策への安心感を20%(H25)から32%(H30)に増加 地区内住民アンケート調査による防災対策への安心感 市民体育館等の耐震強化の必要性について説明したうえで「現時点の防災体制についてどのように思われますか」の問いに対し「安心」、「ほぼ安心」と回答した割合	20%	%	32%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	富士宮市	直接	富士宮市	－	－	大富士中学校区周辺地区 都市再生整備計画事業	A=658ha	富士宮市	■	■	■	■	■	869		－	
											小計						869			
											合計						869			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
富士宮市都市再生整備計画事業評価委員会 学識経験者 日本大学理工学部土木工学科教授	平成31年3月
	公表の方法 富士宮市ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・市民体育館つり天井耐震補強事業にて、耐震補強と合わせて、第一、第二体育室、武道場の照明をLED化し、空調設備の整備を行ったことにより、利用者からは「環境もよくなり、使いやすくなった」と評価されている。 ・大富士交流センターは、災害時における地区担当班（市職員の防災組織）の地区本部となり、地区内の情報収集や調整拠点としての機能を発揮している。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・大富士交流センターの整備により、地域住民の交流・活動の場が確保され、地域コミュニティの活性化につながっている。また、「大富士交流センターまつり」を毎年開催し、地域住民による模擬店や舞台発表等のイベントを実施することで、地域住民の交流促進が図られている。 ・また、市民体育館の耐震補強、照明のLED化及び空調設備の整備を行ったことにより、利用環境の向上が図られた。

○特記事項（今後の方針等）

・今後も交通事故の減少をさせていくため、横断歩道付近の歩行者だまりにポストコーンを設置するなど、歩行者目線の道路整備を継続的に行い、歩行者と車両の接触機会を減少させ、運転手のヒアリハットの機会の減少を図る必要があることから、交通安全に対する勉強会や、危険箇所の情報共有等の地域活動の継続により、市民の安全性と満足度を引き続き向上させていく。

・大富士交流センターの建設により、講座開催等の場として、多機能の会議室等が複数設置され、本地区に交流拠点の場ができたことから、施設の活用方法を運営面から検討し、多世代のみならず、多文化を含めた更なる地域交流の場としての利活用を推進し、コミュニティ活動の増進を目指す。

また、防災上の施設利活用として、外国人向けの防災講座を継続して行い、今後は多くの外国人が防災活動に参加できる体制を整えていく。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	公民館の利用者数		
	最 終 目標値	15500人/年	大富士交流センター、図書室の建設により地域のサークル活動や生涯学習の場が確保され、地域の交流が促進したため、利用者数の増加に寄与したものと考えられる。
	最 終 実績値	49392人/年	
2	道路環境の安全性満足度		
	最 終 目標値	39%	既存道路空間の再編による整備であったため、ポストコーン、グリーンベルト等の設置により歩道空間の確保を行ったことで、歩行者の安全性満足度は微増したが、車両空間が一部狭くなったことで、市民の十分な満足度が得られなかったと考えられる。
	最 終 実績値	30%	
3	防災対策への安心感		
	最 終 目標値	32%	大富士交流センターの建設、市民体育館のつり天井耐震補強、外神スポーツ広場トイレ建設により、防災機能が拡充したため、満足度の向上に寄与したものと考えられる。
	最 終 実績値	37%	